今こそ海外で働く 若者が関心

働き方意識 コロナ断念の反動

海外で働くことへの関心が若者の間で高まってきている。働きながら滞在できるワーキングホリデー制度への申し込みが回復。新型コロナウイルス禍で望んでも留学できなかった反動に加え、リスキリング（学び直し）熱を背景に、今後のキャリアアップを見据えて挑むケースが目立つ。

「留学できないなら、せめて働きながら海外で暮らせるワーキングホリデーに挑戦しようと思った」。オーストラリアのメルボルンに滞在する大学生の田中優辰さん（22）は海外に関心があり、在学中の留学が必修の大学を選んだ。しかしコロナ禍で考えていた形での留学はかなわず、できるようになった頃には就活の時期に差し掛かっていた。

そこで大学を休学。2022年夏にワーキングホリデーで渡航した。イタリア料理店のウエーターとして週4日ほど働く。「働いて初期費用をまかなえるのがありがたかった。帰国後は学んだことや英語を強みにしていきたい」と語る。

ワーキングホリデーは青少年が働きながら海外生活を体験できる制度だ。日本では1980年に豪州と協定を結んだのが始まりで、2023年3月時点では27カ国・地域との間で導入されている。相手国・地域によってビザ発給などの要件が違うが、期間は原則1年間、基本的に18～30歳までが対象となる。

利用者はコロナ禍でいったん減ったが、最近再び増えている。豪州にワーキングホリデービザで滞在する日本人は22年12月末時点で約5700人と前年同期に比べて7・7倍に増えた。

ワーキングホリデーや留学を支援するリアブロード（東京・渋谷）でも4月の渡航を手助けした人が既に220人を超え、前年同月の3倍以上、コロナ前の19年4月比でも6・5倍だという。担当者は「コロナ禍で海外へ行けず、この機会に『リベンジ』をしたい人が多い」と説明する。豪州の他、カナダや欧州なども候補に挙がる。

同社が3月下旬に開いた説明会には希望者35人が集った。観光業の男性（30）は「コロナ後はまた訪日客が増えると思うので、海外で英語力を高めたい。ただ会社を辞めるのには葛藤がある」と打ち明ける。社会人だとキャリア中断を迫られる場合が多い。それでもなぜ今海外へ行くのか。

3月からシドニーに滞在する丸岡彩夏さん（29）は会社を辞めて渡航した。大卒時は飲食業に就職。会社から「3年は下積み」と言われて必死に働いたが、将来に魅力を感じられず転職した。さらにコロナ禍。「下積みを耐えてもこの先何が起こるか分からない。どこでもやれるスキルを身につけてキャリアを切り開きたい」と挑戦を決めた。

語学学校へ通いつつ、日本料理店で働く。英語力を磨き、滞在中に現地のローカルレストランで接客の職を得るのが当面の目標だ。帰国後は以前とは別の業種や英語を生かした仕事に就きたいと考えている。



リアブロードの説明会では海外滞在中の人の話に皆が聞き入った（東京都渋谷区）

日本での働き方への違和感が背中を押す。東京都内の男性会社員（28）は「日本では年功序列で給料も上がらない。休みがとりにくく仕事中心の毎日」と漏らす。円安もあって海外の情報を集めるうち、日本より働きやすそうな環境に魅力を感じた。ワーキングホリデーでの渡航を検討中だ。

海外移住のステップにと考える人もいる。臼見芽生さん（24）は22年2月からワーキングホリデーで1年間カナダに滞在し、移住を考えるようになった。今夏からは豪州行きを計画。「現地で働いてみないと学べないことは多い。（ワーキングホリデー可能な）30歳までに数カ国まわって住みたい国を探したい」

ただ日本との環境の違いは大きい。豪州滞在中の小田晏澄さん（25）は「仕事や家を探すのがとにかく大変。10件申し込んで1件連絡が返ってくればいい方だ」とため息をつく。帰国後の再就職に苦労する例もある。日本ワーキング・ホリデー協会の真田浩太郎さんは「語学力がなければ働ける場所が限られるので、日本人で集まっていては成長しにくい。出発前に目的意識をしっかりと持ち、帰国後のキャリアを考えて動く必要がある」と助言する。

ワーキングホリデーとは…



国・地域間の取り決めなどに基づき、相手側の青少年の休暇目的の入国や旅行・滞在資金を補うための付随的な就労を認める制度

その国の言語を使う機会を増やそうと飲食店での接客を選ぶ人も多い

対象国	オーストラリア、カナダ、英国、ドイツ、フランス、韓国 など 27カ国・地域（3月1日時点）
期間	原則1年間
ビザ発給要件	▪申請時の年齢が18歳以上30歳以下 ▪健康であること ▪以前に同じ国のワーキングホリデービザを発給されていない など

（注）国・地域によって要件や期間には違いがある

海外で働いてみての感想は…

よかったこと

- 英語力が身についた
- その国の文化や雰囲気をより深く知ることができた
- 現地の人と仲良くなれた
- 休みがとりやすい



イメージと違ったこと

- 日本では考えられない理由でクビになった
- ネット求人に申し込んでも返信が来ないときがあった
- 交通機関が全く動かず家に帰れなくなることがあった
- 物価が高い場所だったのであまりぜいたくはできなかった



（注）ワーキングホリデー経験者への取材・意見を基に作成

許諾番号30093394　日本経済新聞社が記事利用を許諾しています。

掲載日 2023年4月27日 日本経済新聞 夕刊 8ページ ©日本経済新聞社 無断複製転載を禁じます。